

各 位

会 社 名 スターツ出版株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 菊地 修一
 (J A S D A Q ・ コード 7 8 4 9)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 取締役管理部長 池端 利美
 電 話 03 - 6202 - 0311

平成20年12月期通期（非連結）業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年8月21日付の「平成20年12月期 中間決算短信（非連結）」内で発表しました平成20年12月期（平成20年1月1日～平成20年12月31日）における通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 通期（平成20年1月1日～平成20年12月31日）業績予想を下記のとおり修正いたします。尚、通期の確定値及び詳細につきましては平成21年2月19日に公表する予定です。

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	3,700	120	130	65
今回修正（B）	3,550	22	39	1
増減額（B - A）	150	98	91	64
増減率	4.1%	81.7%	70.0%	98.5%

2. 修正理由

当期、特に昨年夏以降における景気後退感は、停滞ではなく明らかに後退に拍車をかけたものでありました。不況感は一般消費者までも拡大し、当社で発行している書籍等の販売高にも影響を著しく与えたものと思えます。当社における広告収入も全体的にはやや減少傾向にありましたが、『オズマガジン』を中心とした『オズ』メディアブランドの確立を実施し、広告の落ち込みも最小限にとどめる事ができました。

一方、当社ではケータイ小説という分野を中心に書籍（単行本）の発行を近年行ってまいりましたが、競合他社による同分野の書籍発行により競争が激化してまいりました。また、ケータイ小説という若年層向けのマーケット全体が縮小してきた事も売上高減少の要因のひとつとして考えられます。書籍販売高のある程度の落ち込みは予想しておりましたが、その予想を上回る勢いで書籍に関する販売高が落ち込み、返品も増加致しました。結果、費用面において返品調整引当金の増加による費用繰入が当初の予想よりも多く発生する事となりました。また、金融市場の冷え込みから企業年金運用の悪化による積み立て不足が発生し、退職給付費用の費用処理も予想以上に発生致しました。当社としましても、今後の強化事業への人員のシフトや既存事業におけるコスト見直しや販売管理費の見直しも同時に行ってまいりましたが、売上減少分を補う事ができませんでした。

一方、他の事業としましてはインターネット事業で展開している成功報酬型の手数料収入は掲載施設数の増加などもあり堅調に推移し、飲食店等のクーポン付きフリーペーパーを展開している地域情報紙事業においてもほぼ予算を達成しており、これらは堅調に推移しております。

つきましては、このような当社の業績状況を鑑みて通期業績予想としましては、売上高を前回予想値より150百万円減の3,550百万円、営業利益は同じく98百万円減の22百万円、経常利益は同じく91百万円減の39百万円、当期純利益は同じく64百万円減の1百万円と修正させていただきます。

3. 配当について

平成 20 年 12 月期の配当予想につきましては平成 20 年 8 月 21 日に発表した予想数値からの変更はございません。

1 株当たりの中間配当金	1 株当たりの期末配当金	1 株当たりの年間配当金
	2,500 円	2,500 円

4. 役員報酬の減額

上記、平成 20 年 12 月期の業績予想の修正を真摯に受け止め、経営責任を明確にするため、以下のとおり当社役員報酬の減額を実施しております。

(1) 実施内容

代表取締役及び専務取締役 年額報酬の 18%減額

取締役及び執行役員 年額報酬の 3% ~ 7 %減額

(2) 実施時期

平成 21 年 1 月より当面の間

(終了時期においては、今後の業績に照らし判断致します。)

5. ご参考：前期の実績（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通 期(平成 19 年 1 月～12 月)	4,955	422	435	235

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上